

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372102216		
法人名	株式会社 ナンプ		
事業所名	グループホーム リズム (リズム1)		
所在地	岡崎市若松町字西之切50		
自己評価作成日	令和 2年 7月28日	評価結果市町村受理日	令和 2年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvcCd=2372102216-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【事業所理念】「いたわりあい、たすけあい、おだやかに、ともにくらす」
 ・長閑な環境の中で、入居者様がその人らしい生活が行えるように援助しております。入居者様が笑顔で安心してお過ごし頂けるように職員一人一人が工夫して個々の能力に応じていろんなことに取り組んで頂いております。日頃のお手伝いのみならず季節に応じた菜園の畑の耕し作業、種まき、収穫等もお願いしています。
 ・御家族様の結びつきを大切にしています。手紙のやりとりや御家族様と一緒に外出へ行って頂いたり、病院への付き添いなど入居後も心身安定が図れるようにご家族様にお願いをしています。年末には御家族様やご友人を招いてのクリスマス会を企画して、一緒に楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月、季節にマッチしたイベントを企画して利用者を楽しませている。イベントは利用者が主役であり、夏祭りの金魚すくいでは生きた金魚を用意し、30匹をすくった凄腕の利用者もいる。うなぎ祭りでは生の鰻を炭火で蒲焼きにする。敬老会は、職員がメッセージを付したプレゼントを贈り、体操やゲームなどをして楽しんでいる。旬の秋刀魚を炭火で焼いて、中庭で採れたさつま芋と一緒に食している。「なんぶの郷秋祭り」には、地域住民を招いておでんや唐揚げ、焼き鳥、たこ焼き、ぜんざいなどの屋台が出る。利用者も一緒に、輪投げや射的、ヨーヨー釣り等に興じている。毎月、これらの様子を「リズムだより」に掲載して家族へ届けている。一人ひとりの生き生きした表情の写真に、吹き出しでコメントを添えている。コロナ禍で家族との縁が疎くなりがちであるが、潤い溢れる通信物となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える位置に事業所の理念「いたわりあいたすけあい・おだやかに・ともにくらす」を掲示し、常に確認できるようにしています。	開設以来15年間、変わらぬ理念を掲げている。入職時の研修の中で理念を説明し、館内の目に留りやすい数ヶ所に掲示して職員への浸透を図っている。実践の様子は職員の言動に表れていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・総代さんとの関係を密に取り、地域行事には積極的に参加している。 ・近隣の小学校や中学校の職場体験の受け入れも定期的に行っている。 ・毎年秋のなんぶの郷秋祭りには地域の方にも回覧板で案内してご参加いただいている。	隣接する小学生の来訪により、手品やランプ、ボウリング、作品作り等で交流している(現在は中断中)。コロナ禍の中ではあるが、延べ4日間の専門学校の実習生の受入れは行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の方からの介護相談等その都度実施している。 ・学校からの依頼で介護の現場実習も定期的に実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域総代・民生委員・包括支援センターの職員・ご入所者様、ご家族様の方々に出席して頂き、運営状況などの報告を行っています。その中でご参加いただいた皆様からご助言やご意見を頂いております。	運営推進会議には、利用者・家族や行政(地域包括支援センター)、地域の代表(地区総代)、知見者(民生委員)等が出席している。今年の3月以降は書面による会議に切り替え、議事録を関係者へ送付している。	運営推進会議の議題として「目標達成計画」の進捗評価や、災害対策の地域協力を取り上げる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所の報告や介護保険についての相談、派遣事業の介護相談員の受け入れを行っております。	コロナ禍により介護相談員の訪問は中断しているが、市へは入退居者の報告に訪問している。社会福祉協議会が主催する市内の“介護事業者”が集まる会合(80名程度)に参加して連携強化に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、二か月に一度会議を行い、現状の把握や確認、改善を行っています。施設全体で身体拘束についての研修会を開催し理解を深めるよう職員に教育しております。	身体拘束に関する委員会は、2ヶ月毎に開催されている。スピーチロックや実際に身体拘束に繋がりがちな場合はどの様に対処すべきかを学んでいる。複合施設合同で、年間2回程度専門の講師を招いて勉強会実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除委員会と併せて現状の把握や確認、改善を行っています。施設全体で虐待防止の研修会を開催し、虐待の理解と防止の教育を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修会を開催しています。外部研修などへの参加を行い、制度への理解を深められるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時には、ご本人様及びご家族様へ納得して頂けるまで説明し、その上で同意を得られるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで意見交換をする機会を設けております。また、担当者会議や面会時などに随時ご意見ご要望を頂き、随時対応やご返答を行っています。	年に2回(4月、12月)家族会を開催し、半年間の状況報告と共に家族の意見を聴き、ホーム運営の改善に繋げている。面会の機会に利用者の様子やホームの取組みを申し伝え、要望などを聴いて叶えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ミーティングを月に1回開催し職員への伝達や意見交換などの場を設けています。又職員からの意見を取り入れ、業務改善や毎月の行事、ケアの方法等意見を言いやすい雰囲気を作っています。	「リズム会議」(職員会議)を毎月行っており、自由な雰囲気の中で活発な意見交換をしている。10月に着任する新管理者は、「職員一人ひとりと面談をして、働く意欲を引き出した」との抱負を語った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数・職責・人事評価結果に応じた給与設定、資格取得に対しての報酬制度などがあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員指導員を設け、マンツーマンで指導しております。また、個々のレベルに応じた各種研修会を開催し、新人・中堅・指導員・サブリーダーへの教育を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム小部会・連絡協議会中三河ブロック交流会に参加し、施設見学や研修会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居される前には面談を行い、ご本人の困っていることや要望を伺う機会を作り計画を作成しております。安心して生活して頂けるように職員から積極的に話しかけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・担当者会議時にはご家族様のご要望を伺うようにしています。 ・ご面会時には、管理者がご挨拶をすると共にご要望を聞ける関係づくりができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・状況に応じてご家族様に適したサービスが提供できるように適宜ご相談をさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日頃の掃除や家事の手伝い、畑の手入れ等出来ることは行っていただけるように支援させて頂いております。また日頃の会話やレクリエーションの中でも教えて頂けるような問いかけを心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月作成している「リズム便り」をご自宅に送付させて頂いたり、面会にお越しいただいた際に日頃の様子をお伝えさせて頂いたりして情報の共有を図っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入所者様の散髪はご家族様に実施して頂いたり、入所前から受診されている病院にご家族様に付き添っていただく等これまでの関係を続けられるように支援しています。	家族が一番の馴染みであると考え、毎月発行している「リズム便り」が子、孫の音信の手助けになるよう、表情豊かな写真を多く載せている。公園や道の駅も馴染みの場所であるが、コロナ禍で今は支援を控えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・個々の状態や能力を職員が把握し、入所者様同士が交流を図れるように支援できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・終了の理由にもよりますが他施設へ転居される場合にはそれまでのご様子や介助方法などの情報提供に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何かお願いする時には、必ず意思を確認し無理強いをしないようにしています。	利用者が発した意思表示は、介護記録、業務日誌、申し送りノート、リズム会議等あらゆる機会・ツールを利用して共有している。中でも食事に関する意向が多く出ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・居室には家族の写真やこれまで使われていた家具などを持ち込んで頂き、生活環境に変化が生じないように努めています。これまで使われていたサービスに関しては、情報を取り入れ入所前の生活習慣が維持できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・業務日誌、介護記録、申し送り等でひとりひとりの把握に努めております。 ・心身状態によっては、静養する時間を作り安楽して生活できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入所者様ひとりひとりに担当の職員を決めてケアチェックやモニタリングを実施してカンファレンスの際に意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映しています。 ・担当者会議を開催する際には、御家族様に参加して頂き、ご意見・ご要望をできるだけ取り入れるようにしています。	業務日誌、介護記録の情報とリズム担当者会議(利用者毎の担当職員)の結果を介護計画に反映させている。基本的に介護計画の見直しは6ヶ月毎に行っている。	介護計画の長・短期目標は個性に乏しい。利用者の思いや意向を反映させた介護計画を作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録以外にも日報へ特変事項を記入し、職員間での情報の共有を行っています。個々の利用者様に対しては担当職員がモニタリングを記入し計画に反映できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・心身状態の変化を常に御家族様へ連絡し、サービス内容の変更についてお話しており、緊急性が高い対応の場合には関係職員で協議し対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議時に民生委員の方や総代様に地域情報を聞き把握するように努めています。また地域のボランティアの方の受け入れも定期的に行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・リズムに入所されたらかかりつけ医を当社の協力医療機関に指定して頂く規則はなく選択は基本家族にお任せしております。月1回の往診を始め、必要に応じて受診を行っています。	24時間対応の協力医療機関の往診が毎月1回あり、特別の事情が無い限り受診している。訪問歯科とも契約している。複合施設の他事業所と兼務となる看護師も、常に相談出来る状態にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日2回看護職員へ申し送りを行い、内服や受診の相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・方が一入院された場合は早めに面会にお伺いして病院の看護師や相談員と情報交換を行い病状の把握と退院後の受け入れ体制を整えるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化指針を設けてご家族様から同意を頂いております。その中でご本人、ご家族様の意向を確認させて頂き話し合いをするようにしております。	入所時に「重要事項説明書」の別添資料である「重度化対応指針」を説明している。ホームでの看取りはしないが、医師との連携・家族との面談を経て「重度化対応計画書」を作成し、説明の上同意を得る手順としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時にはフローチャートを参照し、関係者への連絡体制を作り急変時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回日中想定と夜間想定での避難訓練を実施しています。地域の方との関係づくりについては、今後の課題となります。	消防署の立会いこそないが、年間2回、複合施設合同で通報、避難、初期消火訓練を実施している。複合施設全体で100名×5日分の飲食料を備蓄している。毛布等も備えている。	防災訓練を行う場合には、管轄消防署の立ち会いを得て、適切な助言やアドバイスを得ることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・馴染みの関係を築きつつ、相手の方に不快な思いをさせないような言葉遣いを行えるように努めています。プライバシーに関しては社内研修等で理解を深めるようにしています。	複合施設全体の職員対象に、プライバシーに関する研修を行っている。利用者へは敬語を使って話し掛け、呼称は「苗字にさん付け」で呼び掛けることが浸透している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・何かを押し付けるようなことはせず、個々の能力や心身状態を把握した上で、自己決定が行えるように声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来る限りご本人様のペースを大事にしてそれに合わせて自由に過ごして頂いております。しかしながら職員のペースに合わせて頂く場合もまだまだ見受けられます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご自分で着られる服を選んで頂いたり、髪の毛の寝ぐせがないようになど身だしなみには気を配っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・出来る方にはテーブル拭きや食器の洗いや片付けを行っていただいておりますが特定の人に偏りがちの傾向が見られます。食事時の会話も大切にしております。	調理担当職員が配置され、ホームで調理した手作りの食事を提供している。中庭で採れたさつま芋と秋刀魚のセットや、寿司と茶碗蒸しのセット等を提供し、生の鰻は利用者と一緒に焼き上げるなどして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・新鮮な野菜や旬の食材を出来るだけ多く食べて頂けるように食事形態にも配慮して必要に応じて食事の介助を行っております。食事量、水分摂取量は毎日記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食の口腔ケアが必要な方には最後まで磨き残しがないように援助しています。 ・ご希望者には訪問歯科診療を使って頂き、ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表をつけてトイレでの排泄を基本としています。車椅子の方でも職員2名介助にてトイレでの排泄介助を行って自力排泄を取り組んでおります。	排泄チェック表を活用し、利用者が自力でトイレ排泄することを目標に支援している。介助が必要な利用者には、安全を優先して、2名の職員で支援することもある。羞恥心に関わる異性介助の拒否は起きていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・朝はヤクルト屋にはミルミル、おやつにヨーグルトを提供して自立排便を促す取り組みを行っています。個人差はありますが便通が改善された方もおられます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週3回の入浴機会を設けております。本人様の体調に留意しながら無理強いしない入浴介助を心掛けており場合により時間帯を変える、職員を変える等の工夫をしております。時期に応じて菖蒲湯やゆず湯など工夫をしております。	一日置きの入浴を基本にしている。入浴への声掛けは、利用者一人ひとりに受け入れやすい言葉を工夫している。季節感のある菖蒲湯や柚子湯を提供し、気分転換のために入浴剤を使って変化を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間ゆっくりと眠ることが出来るように日中の活動時間を出来るだけ増やすように努めております。居室の温度調整をこまめに行い布団干しも行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・常に処方内容を職員がすぐに確認できるように個人ファイルに保管しており、内容に関して不明点があれば薬剤師へ確認を取るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・定期的にイベント食を企画しており、利用者様に食べたい物を伺い希望に沿えるようにしています。天気の良い日には屋外への散歩を行い気分転換を行えるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・お一人で外出を希望される方には安全が確認され、職員が付き添える環境を作りにしています。季節に合わせた外出レクやバーベキュー等も開催しております。	中庭が広く、敷地内で日常の外出(散歩)が出来る環境にある。中庭の畑や花壇で、野菜や花の苗の植え付け、水やり、手入れ、収穫などを行い、外気浴の機会としている。季節に合わせて公園(花見)、道の駅(買い物)、初詣などへ出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご家族様との相談の上、現在現金を所持されている入居者様はお見えになりませんが外出しク時には買い物の機会を作り、商品の値段を見ることがお金の大切さを理解して頂けるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・かかってきた電話を本人様に取り次いだり、手紙のやり取りができるように、一緒に手紙を書く支援を行っています。本年度は暑中見舞いをご家族様に出させて頂きました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・清掃や室温、テレビの音量等には常に配慮しています。季節に合わせたフロアの飾りつけを一緒に行いなるべく季節感が味わるように心掛けています。	季節毎にイベントを催し、その時のスナップ写真を共用部の壁に掲示している。利用者と職員が共同で制作した作品も飾ってある。イベント担当職員が作品作りや飾り付けに配慮し、飽きない様に工夫している。イベントの表彰メダルに、ホームの活気を感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・各居室は出入りは自由にしております。余暇時間には気の合った方同士で交流の時間をもたれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時にはご自宅で使われていた家具を持ってきて頂くようにお伝えしております。施設での様子を撮った写真を掲示してできるだけご本人様の部屋とわかるような取り組みをしています。	居室にはベッド、洗面台、椅子、エアコンが標準設置され、それ以外は利用者が使い馴れた物を自由に持ち込んでいる。全ては収容できなかったが、入居時に小型のトラック1台分の荷物を持ってきた利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・各居室に、自室と分かるように写真を飾らせて頂いたり、トイレには入り口に【トイレ】の張り紙を張らせて頂き、安全に使えるように配慮しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372102216		
法人名	株式会社 ナンブ		
事業所名	グループホーム リズム		
所在地	岡崎市若松町字西之切50		
自己評価作成日	令和 2年 7月28日	評価結果市町村受理日	令和 2年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvCd=2372102216-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【事業所理念】「いたわりあい、たすけあい、おだやかに、ともにくらす」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長閑な環境の中で、入居者様がその人らしい生活が行えるように援助しております。入居者様が笑顔で安心してお過ごし頂けるように職員一人一人が工夫して個々の能力に応じていろんなことに取り組んで頂いております。日頃のお手伝いのみならず季節に応じた菜園の畑の耕し作業、種まき、収穫等も願っています。 ・御家族様の結びつきを大切にしています。手紙のやりとりや御家族様と一緒に外出へ行って頂いたり、病院への付き添いなど入居後も心身安定が図れるようにご家族様にお願いをしています。年末には御家族様やご友人を招いてのクリスマス会を企画して、一緒に楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見える位置に事業所の理念「いたわりあい・たすけあい・おだやかに・ともにくらす」を掲示し、常に確認できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・総代さんとの関係を密に取り、地域行事には積極的に参加している。 ・近隣の小学校や中学校の職場体験の受け入れも定期的に行っている。 ・毎年秋のなんぶの郷秋祭りには地域の方にも回覧板で案内してご参加いただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の方からの介護相談等その都度実施している。 ・学校からの依頼で介護の現場実習も定期的実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域総代・民生委員・包括支援センターの職員・ご入所者様、ご家族様の方々に出席して頂き、運営状況などの報告を行っています。その中でご参加いただいた皆様からご助言やご意見を頂いております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所の報告や介護保険についての相談、派遣事業の介護相談員の受け入れを行っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、二か月に一度会議を行い、現状の把握や確認、改善を行っています。施設全体で身体拘束についての研修会を開催し理解を深めるよう職員に教育しております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束排除委員会と併せて現状の把握や確認、改善を行っています。施設全体で虐待防止の研修会を開催し、虐待の理解と防止の教育を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修会を開催しています。外部研修などへの参加を行い、制度への理解を深められるように努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時には、ご本人様及びご家族様へ納得して頂けるまで説明し、その上で同意を得られるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで意見交換をする機会を設けております。また、担当者会議や面会時などに随時ご意見ご要望を頂き、随時対応やご返答を行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所ミーティングを月に1回開催し職員への伝達や意見交換などの場を設けています。又職員からの意見を取り入れ、業務改善や毎月の行事、ケアの方法等意見を言いやすい雰囲気を作っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数・職責・人事評価結果に応じた給与設定、資格取得に対する報酬制度などがあります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員指導員を設け、マンツーマンで指導しております。また、個々のレベルに応じた各種研修会を開催し、新人・中堅・指導員・サブリーダーへの教育を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム小部会・連絡協議会中三河ブロック交流会に参加し、施設見学や研修会を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居される前には面談を行い、ご本人の困っていることや要望を伺う機会を作り計画を作成しております。安心して生活して頂けるように職員から積極的に話しかけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・担当者会議時にはご家族様のご要望を伺うようにしています。 ・ご面会時には、管理者がご挨拶をすると共にご要望を聞ける関係づくりができるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・状況に応じてご家族様に適したサービスが提供できるように適宜ご相談をさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・日頃の掃除や家事の手伝い、畑の手入れ等出来ることは行っていただけるように支援させて頂いております。また日頃の会話やレクリエーションの中でも教えて頂けるような問いかけを心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月作成している「リズム便り」をご自宅に送付させて頂いたり、面会にお越しいただいた際に日頃の様子をお伝えさせて頂いたりして情報の共有を図っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入所者様の散髪はご家族様に実施して頂いたり、入所前から受診されている病院にご家族様に付き添っていただく等これまでの関係を続けられるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・個々の状態や能力を職員が把握し、入所者様同士が交流を図れるように支援できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・終了の理由にもよりますが他施設へ転居される場合にはそれまでのご様子や介助方法などの情報提供に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何かお願いする時には、必ず意思を確認し無理強いをしないようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・居室には家族の写真やこれまで使われていた家具などを持ち込んで頂き、生活環境に変化が生じないように努めています。これまで使われていたサービスに関しては、情報を取り入れ入所前の生活習慣が維持できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・業務日誌、介護記録、申し送り等でひとりひとりの把握に努めております。 ・心身状態によっては、静養する時間を作り安楽して生活できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・入所者様ひとりひとりに担当の職員を決めてケアチェックやモニタリングを実施してカンファレンスの際に意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映しています。 ・担当者会議を開催する際には、御家族様に参加して頂き、ご意見・ご要望をできるだけ取り入れるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録以外にも日報へ特変事項を記入し、職員間での情報の共有を行っています。個々の利用者様に対しては担当職員がモニタリングを記入し計画に反映できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・心身状態の変化を常に御家族様へ連絡し、サービス内容の変更についてお話しており、緊急性が高い対応の場合には関係職員で協議し対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・運営推進会議時に民生委員の方や総代様に地域情報を聞き把握するように努めています。また地域のボランティアの方の受け入れも定期的に行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・リズムに入所されたらかかりつけ医を当社の協力医療機関に指定して頂く規則はなく選択は基本家族にお任せしております。月1回の往診を始め、必要に応じて受診を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日2回看護職員へ申し送りを行い、内服や受診の相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・方が一入院された場合は早めに面会にお伺いして病院の看護師や相談員と情報交換を行い病状の把握と退院後の受け入れ体制を整えるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化指針を設けてご家族様から同意を頂いております。その中でご本人、ご家族様の意向を確認させて頂き話し合いをするようにしております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時にはフローチャートを参照し、関係者への連絡体制を作り急変時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回日中想定と夜間想定での避難訓練を実施しています。地域の方との関係づくりについては、今後の課題となります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・馴染みの関係を築きつつ、相手の方に不快な思いをさせないような言葉遣いを行えるように努めています。プライバシーに関しては社内研修等で理解を深めるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・何かを押し付けるようなことはせず、個々の能力や心身状態を把握した上で、自己決定が行えるように声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・出来る限りご本人様のペースを大事にしてそれに合わせて自由に過ごして頂いております。しかしながら職員のペースに合わせて頂く場合もまだまだ見受けられます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご自分で着られる服を選んで頂いたり、髪の毛の寝ぐせがないようになど身だしなみには気を配っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・出来る方にはテーブル拭きや食器の洗い物や片付けを行っていただいておりますが特定の人に偏りがちの傾向が見られます。食事での会話も大切にしております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・新鮮な野菜や旬の食材を出来るだけ多く食べて頂けるように食事形態にも配慮して必要に応じて食事の介助を行っております。食事量、水分摂取量は毎日記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食の口腔ケアが必要な方には最後まで磨き残さないように援助しています。 ・ご希望者には訪問歯科診療を使って頂き、ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表をつけてトイレでの排泄を基本としています。車椅子の方でも職員2名介助にてトイレでの排泄介助を行って自力排泄を取り組んでおります。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・朝はヤクルト屋にはミルミル、おやつにヨーグルトを提供して自立排便を促す取り組みを行っています。個人差はありますが便通が改善された方もおられます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週3回の入浴機会を設けております。本人様の体調に留意しながら無理強いない入浴介助を心掛けており場合により時間帯を変える、職員を変える等の工夫をしております。時期に応じて菖蒲湯やゆず湯など工夫をしております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間ゆっくりと眠ることが出来るように日中の活動時間を出来るだけ増やすように努めております。居室の温度調整をこまめに行い布団干しも行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・常に処方内容を職員がすぐに確認できるように個人ファイルに保管しており、内容に関して不明点があれば薬剤師へ確認を取るようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・定期的にイベント食を企画しており、利用者様に食べたい物を伺い希望に沿えるようにしています。天気の良い日には屋外への散歩を行い気分転換を行えるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・一人で外出を希望される方には安全が確認され、職員が付き添える環境を作るようにしています。季節に合わせた外出レクやバーベキュー等も開催しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご家族様との相談の上、現在現金を所持されている入居者様はお見えになりませんが外出しク時には買い物の機会を作り、商品の値段を見ることがお金の大切さを理解して頂けるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・かかってきた電話を本人様に取り次いだり、手紙のやり取りができるように、一緒に手紙を書く支援を行っています。本年度は暑中見舞いをご家族様に出させて頂きました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・清掃や室温、テレビの音量等には常に配慮しています。季節に合わせたフローアの飾りつけを一緒に行いなるべく季節感が味わえるように心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・各居室は出入りは自由にしております。余暇時間には気の合った方同士で交流の時間をもたれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時にはご自宅で使われていた家具を持ってきて頂くようにお伝えしております。施設での様子を撮った写真を掲示してできるだけご本人様の部屋とわかるような取り組みをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・各居室に、自室と分かるように写真を飾らせて頂いたり、トイレには入り口に【トイレ】の張り紙を張らせて頂き、安全に使えるように配慮しています。		